名主新助若年ニ付後見　佐太郎
名主箔屋町　又兵衛

川船御役所

〔御觸書〕天保十三年四月廿八日

川筋往來いたし候日覆船江簾をおろし、河岸橋間等江繫置、中には猥之儀も有之哉ニ相聞候、向後雨雪亦は波立候節は格別、寒氣之節たり共、平常簾卷揚ゲ置候樣可致候、

右之通、町中不洩樣可觸知もの也、

寅四月

〔牧民金鑑十九〕天保十三寅年十一月朔日土井大炊頭殿御渡

近來北國筋其外諸國之廻船等、異國船に似寄候帆之立方相見、既に先達而、異國船と見違候次第も有之候、全く三本帆之義は、難相成筋に候處、追々大洋を乘候樣子、以前とは相違之趣に相聞、殊に寄朝鮮之地方近く乘通り候も有之由、其外遠き沖合を乘候節、帆之立方、異國船に似寄候を以て、見違候義にも至り可申歟、依之、以來は異國船に紛らはしき帆之立方致し、幷遠沖合を乘候義可爲停止候、若觸面之趣相背におゐては、吟味之上、急度咎可申付候、

右之通、御料は御代官、私領は領主地頭より、不洩樣可觸知者也、〇中略

十月

〔觸留二十三〕丑〇嘉永六年　九月十五日

伊勢守殿御渡　三奉行江

荷船之外大船停止之御法令ニ候處、方今之時勢、大船必用之儀ニ付、自今諸大名大船製造致し候